

# 競技注意事項

北海道高等学校体育連盟  
テニス専門部  
(平成29年6月 一部改訂)

## 1. 選手・監督について

### (1) 服装

選手の服装はテニスウェアであること。トレーナー、Tシャツ、ウォームアップウェア（上下）等の着用を禁じる。テニス用のセーター、カーディガン、ベストの着用は差し支えない。ただし、天候に配慮してレフェリーが特に必要と認めた場合に限り、ジャージ、トレーナー、ウォームアップウェア（上下）の着用が許される。

### (2) 校名入りマーク

選手は校名入りマークを腰の見やすい位置につけなければならない。

### (3) 靴

選手の靴はテニスシューズであること。

### (4) コーチング

団体戦の競技中、ゲーム終了のエンドチェンジの間に限り、選手はベンチにいる監督・外部コーチ・選手のコーチングを受けることができる。ただし、タイブレーク中のエンドチェンジは除く。その他のいかなる場面においても、選手は競技中に一切のコーチングを受けてはならない。

この条項は「テニス規則 30. コーチング」に基づいて、厳格に解釈されなければならない。違反した選手（監督、コーチ、チーム）に対しては、アンパイア（主審）またはレフェリー（専門部）によってコード・バイオレーションが宣せられ、ペナルティが科される。すなわち、1回目は警告、2回目は失点、3回目はそのゲームを失い、4回目は失格の措置である。（「トーナメント諸規則 3-Q」. ポイント・ペナルティ制度」に基づく。）

### (5) 連続的プレー

ポイント間の時間を20秒と規定する。（選手は一つのインプレーが終わった瞬間から20秒以内に次のプレーを始めなければならない。）また、奇数ゲーム終了後のエンドチェンジの時間を90秒と規定する。（この時、選手は60秒でベンチを離れ、次のプレーのために移動をし、90秒以内に次のプレーを始めなければならない。）

これらの時間を不注意で超過してしまった選手に対しては、タイム・バイオレーションが適用され、ペナルティが科されることがある。すなわち、1回目は警告、2回目以降は失点の措置である。（「トーナメント諸規則 3-Q」. ポイント・ペナルティ制度」に基づく。）

### (6) 提訴（アンパイアへの異議の申し立てなど）

選手・監督は、試合中の事実問題（イン・アウト・フォールト・ノットアップ・レットなど）に関してアンパイア（主審）が下した判定に対し、一切提訴することはできない。判定後、アンパイアの「レッツ・プレイ(Let's Play)」の指示が出たら、選手は20秒以内にプレーを再開しなければならない。これに従わない者にはコード・バイオレーションが宣せられ、ペナルティが科される。（「トーナメント諸規則 20. 決定および提訴」及び「トーナメント諸規則 3-Q」. ポイント・ペナルティ制度」に基づく。）

ただし、ルール解釈上の問題や、相手の監督・選手または応援観客の目に余るプレーを妨害するような応援については、レフェリー（専門部）に提訴して裁定を求めることができる。

### (7) 個人戦でのベンチ及びコーチング

個人戦では、監督はベンチに入ることはできない。また、コート外からのコーチングやそれに類する行為は一切してはならない。

### (8) アピール

選手・監督は、声や態度によってアウト・フォールト・レット・ノットアップ（2バウンド）などのアピールをしてはならない。指を空に向けてアウト・フォールトをアピールする仕草も、審判のいる試合では厳に慎まなければならない。

### (9) 団体戦でのベンチ

団体戦では、監督・外部コーチ・登録選手に限り、1コートにつき1名がベンチに入ることができる。

ただし、監督・外部コーチでベンチに入ることができる人数は、最大1名までとする。

## 2. 試合について

### (1) 時間厳守

試合の開始時刻やコートの変更もあるので、選手は大会本部の連絡に十分注意を払わなければならない。試合がコールされてから5分以内に所定の場所（試合コート）に現れない場合、その選手・チームは失格となる。

### (2) 試合前の練習

試合前の練習は、サーブのみ（各サイド2球ずつ）とする。

## 3. 審判について

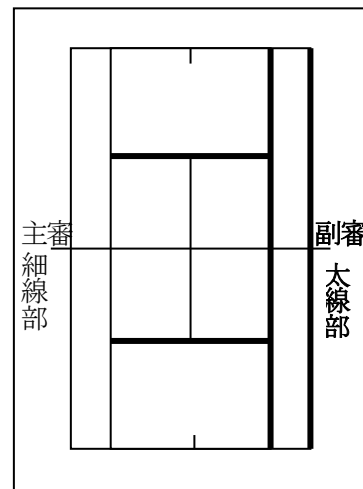
### (1) 敗者審判

審判は、原則として前の試合の敗者（個人戦では負けた選手本人）が行う。  
試合後、敗者は同じコートで待機すること。

### (2) 主審と副審の分担

主審と副審の分担は、右の図の通りである。それぞれの区分を、責任を持ってコールすること。ただし、それぞれの区分が選手の陰になるなどして、ジャッジできなかったときは、両審判が協議してコールする。また、副審も大きな声で「アウト」「フォールト」をコールしなければならない。 **(要注意)**

※太線部が、副審がジャッジするライン



### (3) 主審

ジャッジのコールやカウントのアナウンスは、大きな声で明瞭に行うこと。

### (4) 審判の心構え

「公正」で「責任ある態度」を貫き、自信を持って務めること。また、いかなるコールも選手や監督からの申し立てによって翻してはならない。 **(要注意)**

## 4. 北海道高体連ローカル・ルール

### (1) ボールマーク（コート上に落ちたボールの跡）の調査（確認）

いかなるサーフェスのコートにおいても、選手・監督は審判にボールマークの調査を要請することはできない。  
また、審判は選手・監督の要請によってボールマークの調査を行ってはならない。

### (2) レット

レットは、インプレー中に審判（主審及び副審）が競技に支障をきたすような事実があると判断して「レット」をコールした時に成立する。ただし、ファーストサーブがフォールトになりセカンドサーブを打つまでの間に、他のコートからのボールがプレーの妨げになって審判がレットをコールした場合、サーバーはセカンドサーブから始めなければならない。

### (3) 試合中のけが

試合中の事故・熱中症等によるメディカルタイムアウトは一部位につき1回に限り許される。これには「筋けいれん」も含まれ、専門部がそれを認め、処置の開始を宣言してから3分以内に終了しなければならない。

## 5. その他

(1) 選手の変更は大会要項に記載されているとおり、病気・怪我等の真に正当な理由のある場合に限り、学校長名の文書で申し出ることが出来る（突発の場合はその限りではない）。選手変更の申し出については、専門部で協議の上決定する。選手変更の届け出は、大会前日の引率責任者連絡会までとする。

(2) 試合中に相手の選手を威嚇・挑発したり、相手に不快感を与えるような言動することを禁止する。

(相手に向かってのガッツポーズや「カモン」等の言動を含む)

(3) ガットマークは禁止する。

(4) 雨天の場合も会場に集合して、大会本部の指示を待つこと。

(5) スコアボードは、選手（学校）番号の若い方を左側、または上部に表示すること。

(6) 団体戦のオーダー用紙は、正確に丁寧に記入して本部に提出し、副票を試合開始前の挨拶の時に交換する。

(7) インプレー中の声や拍手による応援は禁止する。アウトオブプレーの際の応援も、節度と良識を持って行わなければならない。相手の選手や周囲の選手への配慮として、歌やポイント間に連呼する応援を禁止する。

(8) 貴重品やラケット等の管理に十分注意すること。